

平成22年10月29日(金)

# 平成23年3月期第2四半期 決算説明資料

## 株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

Kaneka

# 目次

• 業績概要	P.	3
• 主要指標	P.	4
• 売上高	P.	5
• 営業利益	P.	7
• 連結貸借対照表	P.	9
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P.	10
• 為替変動の影響	P.	11
• 海外売上高	P.	12
• セグメントの状況	P.	13
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	17
• 業績予想	P.	18
• トピックス	P.	19

# 業績概要

(単位：億円)

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額	23年3月期 第2四半期 前回予想
売上高	2,018	2,243	225	2,200
営業利益	80	104	24	100
経常利益	72	108	36	90
四半期純利益	40	63	23	50

# 主要指標

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期
・ 売上高営業利益率	4.0%	4.7%
・ 売上高経常利益率	3.6%	4.8%
・ 売上高四半期純利益率	2.0%	2.8%
・ 1株当たり四半期純利益	11.75円	18.54円
・ ROE (年換算)	3.3%	5.1%
・ ROA (年換算)	3.4%	4.9%

	22年3月期末	23年3月期 第2四半期末
・ 自己資本比率	57.6%	55.8%
・ 1株当たり純資産	735.17円	729.27円
・ 有利子負債	636億円	667億円
・ D/Eレシオ	0.25	0.27

# 売上高

(単位：億円)

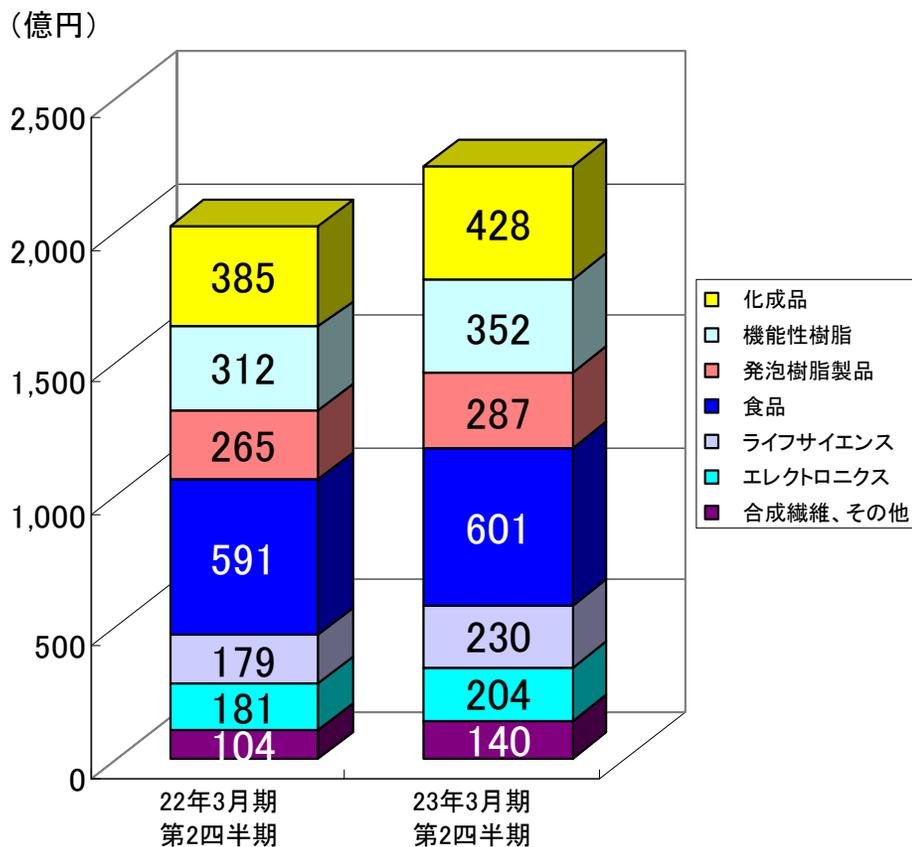
	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
<b>&lt;セグメント別&gt;</b>			
化成品	385	428	43
機能性樹脂	312	352	41
発泡樹脂製品	265	287	22
食品	591	601	10
ライフサイエンス	179	230	51
エレクトロニクス	181	204	23
合成繊維、その他	104	140	36
計	2,018	2,243	225

<b>&lt;単独・子会社別&gt;</b>			
単独	1,186	1,292	106
国内子会社	1,172	1,265	93
海外子会社	354	419	64
消去	△694	△732	△38
計	2,018	2,243	225

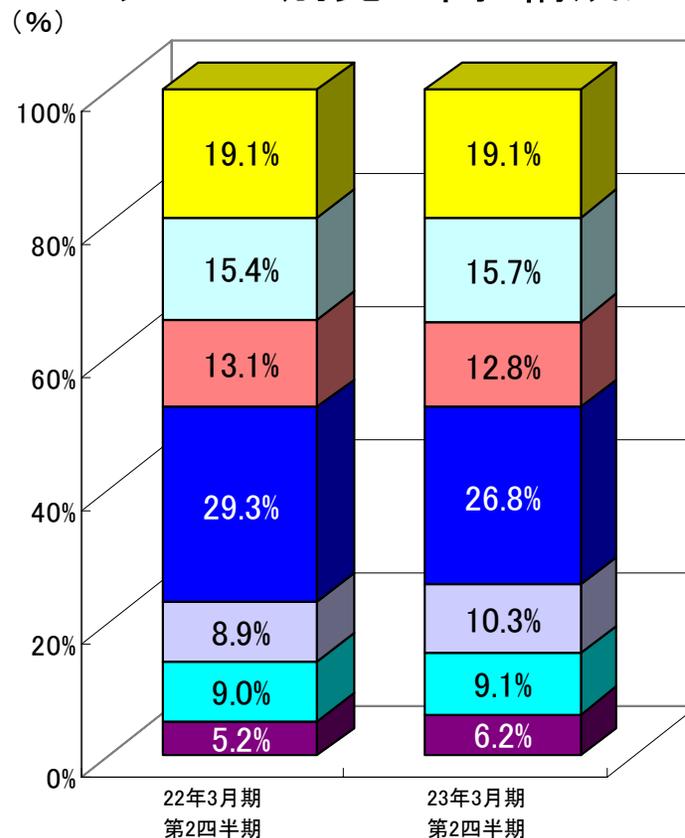
※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前年同四半期はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

# 売上高

## セグメント別売上高



## セグメント別売上高: 構成比



※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前年同四半期はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

# 営業利益

(単位：億円)

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
<b>&lt;セグメント別&gt;</b>			
化成品	5	7	1
機能性樹脂	49	42	△ 7
発泡樹脂製品	25	29	4
食品	42	40	△ 2
ライフサイエンス	19	42	22
エレクトロニクス	△34	△24	10
合成繊維、その他	6	6	△ 0
消去・全社費用	△34	△37	△ 4
計	80	104	24

<b>&lt;単独・子会社別&gt;</b>			
単独	19	24	5
国内子会社	46	52	6
海外子会社	26	43	18
消去	△11	△14	△ 4
計	80	104	24

※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前年同四半期はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

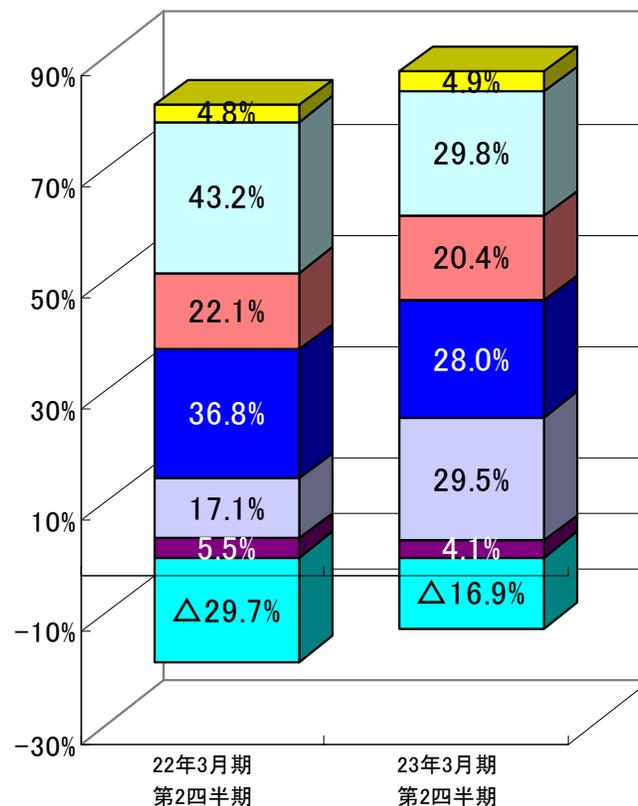
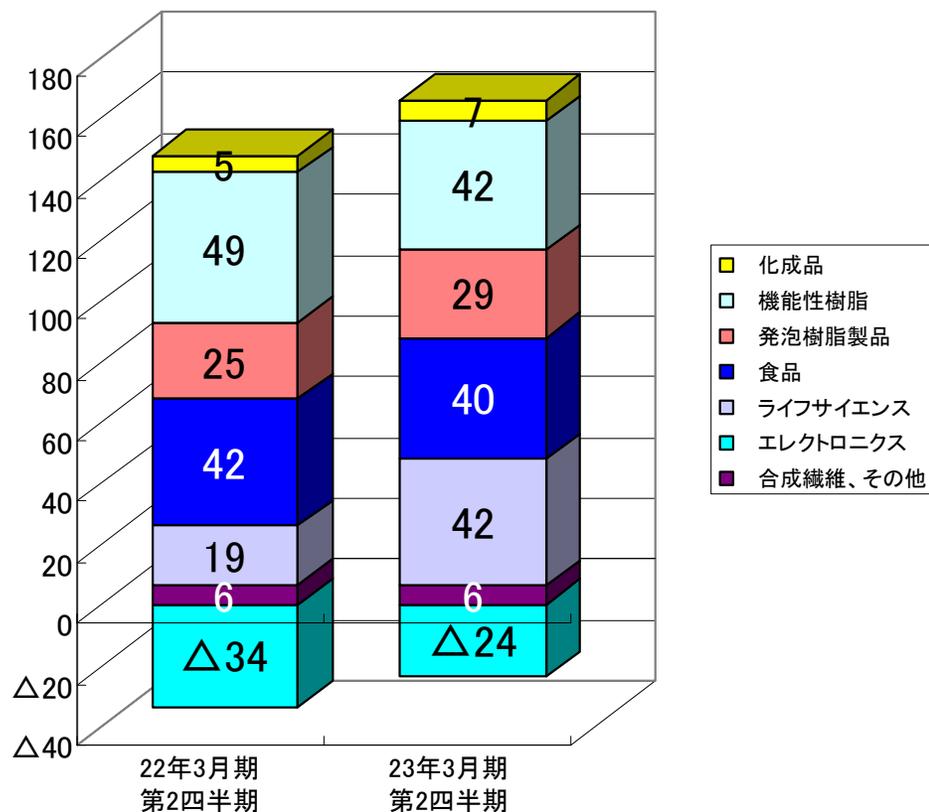
# 営業利益

## セグメント別営業利益

## セグメント別営業利益：構成比

(億円)

(%)



※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前年同四半期はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

# 連結貸借対照表

(単位：億円)

		22年3月期末	23年3月期 第2四半期末	増減額
資産	流動資産	2,081	2,123	42
	固定資産等	2,247	2,305	57
	合計	4,329	4,428	100
負債	有利子負債	636	667	31
	その他	1,121	1,204	83
	合計	1,757	1,871	114
純資産	自己資本	2,494	2,473	△ 21
	少数株主持分 他	78	85	7
	合計	2,572	2,558	△ 14
負債、純資産 合計		4,329	4,428	100

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	310	205	△ 105
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 117	△ 191	△ 74
フリー・キャッシュ・フロー	193	15	△ 179
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 124	△ 12	112
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	72	4	△ 68
現金及び現金同等物の四半期末残高	325	409	84

# 為替変動の影響

## 【期中平均レート】

(単位：円)

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期
U S \$	95.53	88.90
E U R	133.21	113.80

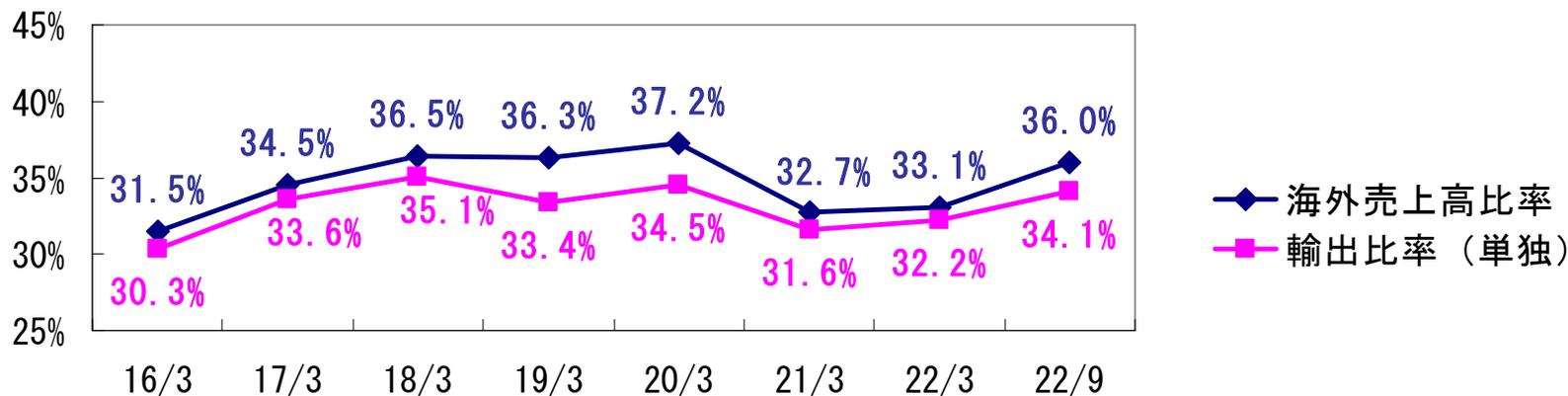
## 【通貨別影響額】

(単位：億円)

	売上高	営業利益
U S \$	△30	△11
E U R	△32	△9

# 海外売上高

海外売上高比率・輸出比率（単独）推移



地域別海外売上高 (単位：億円)

地域	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額	増減率
アジア	303	355	52	+17.2%
北米	117	155	38	+32.1%
欧州	174	208	34	+19.5%
その他	70	91	21	+29.4%

## ○化成成品事業

(単位：億円)	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
売上高	385	428	43
営業利益	5	7	1

塩化ビニール樹脂は、国内及びアジア市場の需要回復を背景に販売数量が堅調に推移した一方、原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正にも注力しました。塩ビ系特殊樹脂は、販売数量の増加、コストダウン等が寄与しましたが、か性ソーダは、海外市況の低迷が続きました。以上の結果、当セグメントの売上高は42,802百万円と前年同四半期と比べ4,262百万円（11.1%増）の増収となり、営業利益は697百万円と前年同四半期と比べ148百万円の増益となりました。

## ○機能性樹脂事業

(単位：億円)	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
売上高	312	352	41
営業利益	49	42	△ 7

モディファイヤーは、アジア及び欧米市場の需要が回復し、販売数量が前年同四半期を上回る中、製品差別化力の向上及びコストダウンにも努めましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受けました。変成シリコーンポリマーは、日本及び欧米市場の販売数量が増加しましたが、同様に原燃料価格の上昇及び円高の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は35,249百万円と前年同四半期と比べ4,081百万円（13.1%増）の増収となり、営業利益は4,232百万円と前年同四半期と比べ686百万円の減益となりました。

## ○発泡樹脂製品事業

(単位：億円)	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
売上高	265	287	22
営業利益	25	29	4

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産用途の需要が低調に推移しましたが、原燃料価格の上昇に対応した製造コストダウンや経費削減に徹底して取り組みました。押出発泡ポリスチレンボードは、国内住宅用途の販売数量が増加しました。ビーズ法発泡ポリオレフィンには、日本・アジア・欧州市場の販売数量が増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は28,727百万円と前年同四半期と比べ2,193百万円（8.3%増）の増収となり、営業利益は2,895百万円と前年同四半期と比べ381百万円の増益となりました。

## ○食品事業

(単位：億円)	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
売上高	591	601	10
営業利益	42	40	△ 2

食品は、消費者の節約・低価格志向を背景に需要が伸び悩む中で、競争激化に伴う販売価格の下落と油脂原料価格の上昇の影響を受けましたが、新製品拡販などにより販売数量は前年同四半期を上回り、コストダウン等による収益確保に注力しました。以上の結果、当セグメントの売上高は60,097百万円と前年同四半期と比べ970百万円（1.6%増）の増収となり、営業利益は3,973百万円と前年同四半期と比べ212百万円の減益となりました。

## ○ライフサイエンス事業

(単位：億円)	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
売上高	179	230	51
営業利益	19	42	22

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量が前年同四半期を大きく上回りました。機能性食品素材は、米国市場を中心に既存品・高機能品ともに販売数量が増加し、同時にコストダウンにも注力しました。以上の結果、当セグメントの売上高は23,023百万円と前年同四半期と比べ5,122百万円（28.6%増）の増収、営業利益は4,188百万円と前年同四半期と比べ2,239百万円の増益となりました

## ○エレクトロニクス事業

(単位：億円)	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
売上高	181	204	23
営業利益	△34	△24	10

液晶関連製品は、販売が低調に推移したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、携帯電話用途など対象市場の需要拡大に伴い販売数量が増加しました。太陽電池は、日本及び欧州市場の販売数量が増加しましたが、競争の激化に伴う販売価格下落の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は20,441百万円と前年同四半期と比べ2,300百万円（12.7%増）の増収、営業損失は2,390百万円と前年同四半期と比べ981百万円減少しました。

## ○合成繊維、その他事業

(単位：億円)	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
売上高	104	140	36
営業利益	6	6	△ 0

合成繊維は、海外需要の回復により販売数量が増加するとともに、高付加価値品の増販やコストダウンによる収益確保に努めましたが、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けました。また、その他事業は、売上高、収益ともに増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は13,964百万円と前年同四半期と比べ3,566百万円(34.3%増)の増収、営業利益は587百万円と前年同四半期と比べ40百万円の減益となりました。

# 設備投資・減価償却費

○設備投資

(単位：億円)

	22年3月期 第2四半期 実績	23年3月期 第2四半期 実績
設備投資	103	151
減価償却費	124	129

# 研究開発費

(単位：億円)

22年3月期 第2四半期 実績	23年3月期 第2四半期 実績
79	86

# 業績予想

(単位:億円)

前回発表予想	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	4,500	230	210	110

当第2四半期連結累計期間の事業環境は、アジア市場の需要拡大及び欧米市場の需要回復を中心に改善が進んだものの、足元の経済情勢は、円高の進行と日本の景気後退、欧米の景気減速懸念や新興国の経済動向など、先行きの不透明感が高まっております。

このような状況をふまえ、当社グループは、引き続き各事業において、販売数量増大のための施策及び製造コストや経費の削減等の収益確保策に徹底して取り組んでまいります。

なお、通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

上記の見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで合理的であると判断したものです。したがって、見通しには様々な不確定要素が含まれており、実際の業績はこれら見通しと異なる場合があることをご承知おき下さい。

- モディファイヤー事業、マレーシアの工場を1.5倍に設備増強  
— アジアでの旺盛な需要に対応し、機能性樹脂部門の競争力を強化 — 10月25日
- バイオ医薬関連事業の強化を目指して新会社設立  
— ジーンフロンティア(株)より全事業を譲り受け — 10月19日
- 発泡樹脂製品部門の販売会社5社を3社に再編  
— 市場ニーズへの素早い対応を目指し、製品別販売組織を市場別販売組織に変更 — 10月1日
- 有機EL照明デバイス事業を本格展開  
— 製造会社としてOLED青森(株)を設立し、東北デバイス(株)より事業を譲受け — 9月29日
- 遺伝子検査分野などの検査診断事業を積極展開  
— 第一弾として、DNAの目視検出が可能な「ピペットチップ型PCR増幅判定ツール」を開発 — 6月28日
- 製パン・製菓市場での更なる競争力強化を目指し新化食品(株)に資本参加  
— イースト事業の更なる強化を目指し出資契約を締結 — 6月18日
- バイオ医薬関連事業を本格展開  
— ベルギーのバイオテクノロジー企業Eurogentec社と資本提携 — 6月17日
- 中国での更なる事業拡大を目指して販売機能を強化 6月14日
- 薄膜系太陽電池の能力増強設備が稼働  
— 80MW増強し年産150MWへ — 6月7日
- 韓国の成均館大学と新規電子材料に関する共同研究を開始  
— 共同研究推進のため、同大学内にインキュベーションセンターを設置 — 6月4日
- 東亜合成(株)への塩化ビニール樹脂製造委託のお知らせ 5月25日

**kaneka**